



発行所
興行寺教化部

福井県吉田郡永平寺町
電話 0776-64-2744
FAX 0776-64-2791

新田塚道場 (支坊)
福井市新田塚2丁目46-26
電話 0776-26-1191
FAX 0776-26-7868

「若原御坊興行寺展」を終えて

白山市立鳥越一向一揆歴史館学芸員 西出康信

山田光教寺顕誓が著した『反故裏書』には、知られるように藤島超勝寺と荒川興行寺の由緒が語られる。早くから加賀越中への教線、血脈の展開が知られる。蓮欽は井波瑞泉寺入寺、加賀二俣本泉寺の血縁に引かれたらしい。興行寺

は蓮助(三代目)も周知の通り蓮如上人の息女如空、蓮亮(四代目)の室は蓮如上人の孫娘であった。当然ながら蓮如上人の息が入寺する加賀三カ寺とは濃い血縁に結ばれていた。永正一揆の九頭龍川合戦に、一敗地にまみれた真宗



寺院は破却され越前を追放される。寺基を移したのが加賀であった。興行寺蓮亮法師も山内若原に寺地を定めた。荒川から大日峠を越え大日川を下れば若原である。それ以上に血縁のある波佐谷松岡寺の近くであったことにもよるのであろう。蓮亮の母は松岡寺蓮網の妹であり、祖母は超勝寺蓮慶の娘という血縁があった。藤島超勝寺・和田本覚寺も加賀江沼、能美郡に寺基を移していた。超勝寺・本覚寺は古くから加賀に教線を伸ばしていた。広げた門徒を頼る以上に、越前回復の意図を込め、越前に近い江沼の地に「城郭寺院」を築いた。

加賀山内若原(現白山市若原)の地に寺基を築いた興行寺も「若原御坊」と尊崇され、加賀の人々には認識されていたようである。若原には「ゴボヤマ(御坊の山)」「ゴボノウラ(御坊の裏)」などの小字名が伝えられ、一帯は「若原御坊」に比定される。旧鳥越村の時代に発掘調査が試みられ、「壺と硯」が発掘されたと記録される。壺は越

前焼、硯は蓮亮に縁あるものとたくましく想像することでもできようか。「大谷一流系図」によれば、蓮亮法師はどうやらこの地で享禄二年になくなっている。歴史口マンである。鳥越城築城前の風景に若原御坊の姿を見いだせよう。

越前牢人の超勝寺・本覚寺・本願寺Ⅱ大・一揆・加賀三カ寺Ⅱ小・一揆、が加賀を二分して戦った享禄の錯乱は超本二寺が勝利し、三カ寺派は追放され、天文十五年の金沢御堂竣工まで二寺が加賀を指導する。超本二寺の本拠地山内にあった興行寺も大・一揆に与していたと思われる。興行寺(玄真系)の教線、血縁を見れば南越中、北加賀に扶植される。井波瑞泉寺・城端善徳寺・二俣本泉寺など一向一

法話

罪深く、悪重きもの

本誓寺住職 松本 梶丸 先生



一番恐ろしいのはやはり人間です。この北国からの渡り鳥がいきました(榎本栄一・詩)

渡り鳥ならずとも、人間以外の生きものが、もし言葉を持っていてなら、やはりこのようにつぶやくのではないだろうか。私が子どもころ、周囲には無数の生きものが共存し、それぞれに生命を謳歌していた。今、私たちの周囲から、かつて存在した生きものはほとんど姿を消してしまっ

た。恣意的にしろ、偶発的にしろ、言うまでもなく、人間が殺し続けてきたのである。人間だけが住みよい環境を生きたために。仏教では人間の存在を「罪惡深重」ととらえる。この名前こそ人間に与えられた、もつともふさわしい名前ではないだろうか。「罪深く、悪重きもの」。人間以外の生きものは戦争をしない。環境を破壊しない。必要以外の生命を奪わない。現代における人間の危機は、「罪惡深重」なる存

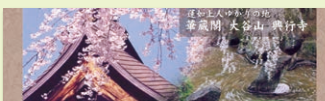
在としての自らに、まったく頭の下がる時を見失ってしまったことではないか。「極悪人」というのは、別して極悪人として外に求むべきにあらず。今のわが身の上のことなり」(『正信偈科文意得』)

「人間であることがそのまま罪惡の存在だということとは、善人だと思っている人には気づきません。主眼から解き放されることもないし、悩みや孤独から自由になれません。悪人である存在をふり返るとき、はじめて本当に「生きる」という姿を見出すのでしよう。それには罪惡深重、煩惱熾盛という教えが、よくよくわが身に見え

ホームページのご案内

平成25年より、興行寺のHPが新設されました。昨年4月の法要の模様、今春の桜の開花便りなど、どうぞご覧下さい。

URL <http://www.kougyouji.jp>



携帯・スマートフォンのバーコードリーダーで読み込んで下さい。

ご法座のご案内

三月二十一日(祝木)
彼岸会 日中・連夜
(ご法話 教応寺殿)
四月二十四日(水)・二十五日(木)
蓮如上人御忌法要

「若原御坊」であったことを興行寺さまのご協力を得て開催できたこと、改めて感謝申し上げます。

五月二十六日(日)
宗祖降誕会・初参式
赤ちゃんの初参りです。どうぞ一緒に参り下さい。



若原御坊 興行寺

— 興行寺はなぜ若原に在ったか —

法務員 大谷 幸美

興行寺は本願寺第五世、綿如上人の三男周覺上人を開基として応永十三年（一四〇六年）に創立されました。

初めは志比の庄、大谷（永平寺町諏訪間大谷）に在住しましたが、応永十八年（藤巻長山）に移り華蔵閣と号しました。

この後、時代は南北朝から室町時代に入り世情が不安になっていきます。



応仁の乱（一四六七）が起り、世は下克上・戦国大名の登場を迎え、各地で一揆が起るようになります。近く加賀においても一向宗勢が守護を討ち（加賀の一向一揆、一四八七年）以降、百年近く「百姓の持ちたる国」として門徒中心の政治体制が行

鳥越一向一揆歴史館を訪れて

総代 山田 芳雄

今回、興行寺総代の研修と言う事で、住職達と共に長い興行寺歴史館の一時期、不幸な苦難の時代に寺基を移した、石川県白山市の鳥越一向一揆歴史館を訪れる機会を得る事が出来、改めて「若原御坊興行寺」と呼ばれ、この地にて、どの様に活躍されたのか、又、寺内門徒として、旧荒川村の門徒達も、

興行寺と行動を共にし、若原の地に移住したのだろうか、そうであるのなら、その門徒は、その子孫達はその後、どうしたのだろうか。荒川村に帰郷したのだろうか等思い巡らしながら、何度も遭遇した不幸な苦難の時代を垣間見る事が出来た。北陸地方に発生した一向一揆において、幾多の戦

た。この時、興行寺第四世蓮弁法師は血縁を頼り加賀山内若原に移り、そこで約六十年間寺院を構えました。興行寺若原への由縁です。そして、若原の地においても興行寺は一家衆としての品格があり、一帯は御坊と呼ばれ、寺中心に多屋が集り、にぎわいがあつたことは充分考えられます。（鳥越村史に御坊の論述記載がみられます）その後、朝倉氏と本願寺が和睦。永禄十二年（一五六九年）若原御坊興行寺は現在の地に戻りました。周覺上人開基地から現行地は四地目になります。又、興行寺のしだけ桜、イチヨウの木はこの時に植えられたと古来より言い伝えられています。興行寺がこの地に戻って寺院建設、整備した時、植樹したとすれば樹齢四百年・四百五十年はほぼ間違いのないと思われます。

月二十四日の約二ヶ月間、白山市立鳥越一向一揆歴史館にて「もう一つの一家衆寺院若原御坊興行寺展」が開催されました。この企画に先立ち昨年五月八日歴史館館長、学芸員の西出様、住職と私と



の感は充分みてとれました。こうして今、歴史の地に立ち、目の前は杉林だけではありますが、はるか当時を思い、その思いめぐらし、先人が何を思っていたのかを考えるに心熱く、感慨深いものでした。来てよかった。今ここに

一向一揆を訪ねて

仏教壮年会副会長 但川 隆治

今回の仏社の研修は一日研修で白山市に足を向けました。白山市立鳥越一向一揆歴史館中心に、半世紀余り山内若原にあつた興行寺のルーツを追った。

この興行寺は「若原御坊」と呼ばれ尊崇された御坊と称される興行寺はどんな寺院であり、何故若原の地にあつたか、まず「ゴボヤマ」の上り口へ足を運んだ。御前様・柴田會長さま他二十名の参加者の皆様と、この年の暑い暑い毎日の酷暑をものとし、ず学芸員さんの物静かな語りについに聞き入ろうと頑張った一日でした。

若原御坊は「朝倉始末記」が語るように加越の關優が續いた永年三年（一五〇六）から永禄十二年（一五六九）の六十年余り、山内若原にあつて御坊と尊称された。小字名「ゴボヤマ（御坊山）」「ゴボノウラ」が御坊址と比定される。

この五月に御前様と役僧様が半日ばかりで頂上まで、砂防作業道を経て道なき道を学芸員さんの案内のもと必死で登られたと

立つている自分が不思議な気がします。

この興行寺企画展に多くの方が見学に訪れたと聞いております。訪れた方々、この企画展を開催していただきました白山市歴史館館長様、西出学芸員様、他関係各位様に深くお礼申し上げます。

説明されたお顔には大変ご苦労された様子を感じ取らせていただきました。四〇〇mから五〇〇m標高の背後の山には、丹生寺・中ノ寺が存在したとされる。一間幅の九十九折の古道を登り頂上に至ると人口の平坦地がいくつと確認できる。わけても切通と巨大な岩を見れば「虎口」とも思える。あるいは古道の複数箇所石積みもあつて人工的に「虎口」の造作を見て取ることができる。土塁や柵を設ければ中世の山城であろう。水場であつたか池らしい窪みもある。麓の「ゴボヤマ」と組み合わせれば山内旗本出羽守屋敷と詰の城と比して遜色ない城郭寺院のように見える。御坊と云われることは、この地で重要な寺院であり、本願寺教団の拠点でもあつたのであろう。

その後、隣のせせらぎにてやや遅い時間の昼食になったが、美味しく（一揆そば定食をいただいた。帰路途中の道の駅「瀬名」に立ち寄り土産の買い物と、今春オープンした

ネパールへのお誘い

今回の興行寺主催の海外旅行は来る五月六日より十日まで五日間。ポカラにてヒマラヤ山脈眺望と古都カトマンズの旅です。ポカラはペワ湖と眼前に広がるヒマラヤ・アンナプル十連峰の雄大な景色です。ぜひご参加下さい。パンフ請求下さい。

住職雑記

○昨年は三十七年ぶりの大雪に見舞われ大変だったが、今冬は雪は少ない。一月は降雪前年比十五%。○センチの日が多く、楽であつた。

○今年は久しぶりにネパールへの興行寺主催の旅行である。初めて海外旅行したのが昭和四十七年秋、ネパール、インドの旅であつた。すごいカルチャーショックを受けたのと、積尊の遺跡にお参りでき、感動した。その後、門信徒の方に呼びかけ何度かインド仏跡の旅を行つた。

今日も涅槃会でクシナガラという釈尊涅槃の地の名が出てきたが、当地の風景が浮び、大変なつかしく思ひ出した。近年、スリランカ、ブータン、ミャンマー、ベトナムと続いたが、もう体力もなくなり、最後にしたいと思い最初に行ったネパールを計画した。しかし、もう一度だけインドに行つてみたい気もする。

ようやく 駐車場工事終了

昨夏二年ぶりに工事が終了した。

平成廿八年四月二十四日、親鸞聖人七百五十回大遠忌を迎えるに当って駐車場の用地を購入した。藤巻区内にあり、お寺よりも近くであるが、長年住む人もなく、うつ蒼として朽ちかかった家屋が四棟ほどあり、小動物の住みかとなっており、夜歩くのがこわいという声もあった。拡大な屋敷で村内でも有数のものであろう。



大法要を迎える期に、駐車場が問題になる。前回の平成十八年の蓮如上人五百回大法要の時、吉峰のキャンプ場や道路の片側駐車であつた。今回は中島区の河川敷きに駐車し、シャトルバス運行という計画になっていた。しかし離れていると何かと不便である。丁度、法要も間近にせまる二月二十三日、急に地主との間に話が進み、約千八百坪の屋敷を購入することがまとまつた。



町道として土地寄附

地元集落内の道幅が狭くて車のすれ違いがスムーズにいかない。そこで、道幅拡張の為、町道にと永平寺町に百十二米(約三十三坪)を寄附。その後予算がつき舗装された。道沿いには地元の集会所やゴミ収集場があり「一葉に駐車出来て、利用しやすい」と喜ばれている。

さくし支柱工事

昨冬の大雪でしだけ桜のかなり大きな枝が二本折れた。古木なるが故に折れやすい(折れた枝は本堂にて展示)。

昨夏、ささえ木も古くなり限界でもあり一新、四十本以上入れ替えた。クレーンで大がかりな工事だった。

――●●●――
本堂裏の南角の通路を広げた。桜見物の歩道の段差があるのと、狭いので危険でもあり、段差をなくし広くした。車イスでも通行できるよう整備した。

米寿

寺内の古山みさをさん、信徒の平野栄治さんから米寿のお祝のおもちゃを頂きました。どうぞ長生きして下さい。

災害や緊急の場合、広い道路が大切である。特に冬の雪の道も広い方がよい。まだ集落内に入る三差路が狭く観光バスや大型の工事車が入りにくい。将来、スムーズに出入り出来るよう願いたいものである。

お便り

少し秋めいてまいりました。

先日は、「平成三十年秋号興行寺新報」を早々に送付して頂きまして誠に有難うございました。今回は第九十八号とされるについて、年二回の発行と知ることが出来ました。なんと真心深き新報なのだと思つて拝読させて頂きました。こんな勿体ない新報に、私ごときの記事をのせて頂いた誠に有難うございました。

寄附

○下合月の黒瀬頭治氏は若住職用の「七条袈裟」と「色衣」をご寄附いただきました。法要、葬儀等に着用させて頂きます。ありがとうございます。

○勝山市の中村きみ枝さんは、めでたく米寿を迎えられ、その記念にと本堂での住職のイスと、導師が登礼盤をする時、腰かけに使用できる立派なイスを寄贈いただきました。ありがとうございます。

米寿

寺内の古山みさをさん、信徒の平野栄治さんから米寿のお祝のおもちゃを頂きました。どうぞ長生きして下さい。

お念仏
一、如来の大悲にてらされて尊きおしえにいただいた歩いた坂をふりかえり自力の心ふりすてて光と仰ぐお浄土ははるかなたの西の岸二、深き恵みよるこんで真如のさとりのたいて永遠のよるこび胸にだきさとの国に生まれゆき功德の宝ほどこして阿弥陀仏にお念仏三、不可思議光のみおしえにさとの道にみちびかれ深きめぐみをよるこんで仏の道にささげゆきこよなき信にめぐまれて阿弥陀仏にお念仏
鹿兒島県日置市 東 一男様

空高く 青にはえる
さくらいろ
鱒江市 山田 有彦
庭園の しだれ桜や
せせらぎの
福井市 森下みよ子
以上、設置してある投函箱より

葺きよの 93才 下合月
山田 隆子 92才 伊勢原市
黒川 久恵 81才 藤巻
関 典男 89才 春江
柳原 裕樹 59才 光明寺
北口 達夫 71才 京都
中村 鐵也 92才 勝山
中村 虎治 98才 片瀬
小林 登士 67才 比留谷
多田 治弘 74才 東京
多田 義雄 81才 松岡
山田 ちよ子 86才 福井
松山 初枝 97才 比島
河野 力ズエ 93才 勝山
大沢 徹 67才 勝山
黒瀬 一郎 80才 下合月
藤田 慶一 88才 春江
古山 徳三 90才 藤巻
酒井 宗二 85才 清水
山口 幸子 70才 勝山
水野 寿夫 87才 桐

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

興行寺の 垂れ桜に
勝山市 藤井 玉枝
前回の興行寺新報に庭の満開になっていたのを見てなつておりました。もう一回興行寺に行つてみたい気持はあるのですが、何せ高齢者であり、「身体障害者(一級)」の身であれば一人ではどこにも行かれません。今足のかたで入院して二ヶ月になります。未だ退院の目処は立っておりません。

亡くなられた方々

田中秀信殿 父の 竹原
石井和明殿 祖母の 吉峰
前川英一殿 父の 竹原
前川英範殿 父の 竹原
朝日裕友殿 母の 竹原
反保成樹殿 父の 竹原
丸山清士殿 母 片瀬
山田哲弘殿 祖父 福井
鈴木麗子殿 父・母・兄弟・四方 京都

永代経懇志(信徒)

田中秀信殿 父の 竹原
石井和明殿 祖母の 吉峰
前川英一殿 父の 竹原
前川英範殿 父の 竹原
朝日裕友殿 母の 竹原
反保成樹殿 父の 竹原
丸山清士殿 母 片瀬
山田哲弘殿 祖父 福井
鈴木麗子殿 父・母・兄弟・四方 京都

仏教保育・真宗保育・まことの保育

名称について(一)

「仏教保育」から「真宗保育」、そして「まことの保育」の言葉がいつごろからつかわれはじめたのか、保育連盟の歴史に沿って考えてみたいと思います。

一九四八(昭和二十三)年に、浄土真宗本願寺派の社会部に「保育事業協会」が設けられました。この年は「児童福祉法」が施行された年です。そして市立の幼稚園をはじめ、全国各地にぼつぼつと、通年制の民間保育所が開設されていきました。

このころの私立幼稚園や私立保育所は、一宗一派に属した保育をしてはならないという行政の強い指導があり、仏教や真宗といふた表現を避けなければならぬという実情がありました。このため、個々の園では「宗教的情操教育」という曖昧な表現で、園の目標を立てなければならなかったのです。

土曜学校生作文

第六十二回本願寺全国児童生徒作品展に当土曜学校の乾達矢君が応募。佳作に選ばれた。

「ぼくの友達」

興行寺土曜学校四年

乾 達 矢

先月、亮輔くんのおばあちゃんが亡くなりました。ぼくは、両親とお通夜に行くことになりました。亮輔くんとは、うち園の時、たくさんいっしょに遊びました。いやなことをしたり

しかし、本願寺派の保育事業協会は、全国的に加盟園数が増えるにつれ、徐々に活動が活発になり、一九五三(昭和二十八)年には「保育資料」を創刊しました。私立の幼稚園や保育所が増えていく中で、行政指導もやや緩和されたのか、「宗教的情操教育」から一歩踏み込んで、「仏教保育」という表現が用いられるようになっていきます。ちなみに本願寺派の教化団体では、浄土真宗でありながら「仏教婦人会」や「仏教青年会」、「仏教日曜学校」(現在は「少年連盟」)など、冠に「仏教」をつけ、活発な教化活動を行うようになっていきました。そういえば、一九五七(昭和三十三年)年から始まった真宗十派共催の「仏教保育大学講座」も、その時代の名残を今に残して、その伝統を築いてきたといえます。

さて、「真宗保育」の言

葉が最初に登場するのは、(故)大関尚之先生の「真宗の教えと保育」その一(「保育資料」一九五九(昭和三十四)年六月号)の文中です。続いてその翌年、一九六〇(昭和三十五年)年に、「真宗保育指導計画」が発表され、当時の保育界はじめ、他宗派の関係者からも注目を集めました。

次に、「まことの保育」という表現がもちられるようになったのは、一九六八(昭和四十三)年以降です。この年の四月、新たに規約を制定して、それまでの保育事業協会を改め、「浄土真宗本願寺派保育連盟」が誕生しました。

当学会の研究紀要である「真宗保育研究」第一号に、(故)醍醐定徹先生の研究発表が記載されています。それによると、この翌年の「保育資料」に、初めて「まことの保育」という言葉が出てきます。

されたり、おまじりのと中に二人でふざけてしまつて、先生におこられたりしました。でも、今は別の小学校に通つていて、ほとんど会いません。たまに顔を合わせても、お母さん同士が話すだけで、ぼくらはほとんど話しません。お通夜に行く前に母が、「今日は亮輔くんと話す時間がないと思うから、伝えたいことは手紙に書くといひよ。」と言いました。ぼくは「いっしょに遊んだことを、よく覚えてるよ。サッカーががんばつてね。」と書きました。

お通夜では、亮輔くんと、ほとんど話せませんでした。おしよ香が終わつて帰る時、何か伝えなきゃと思つて、急いで亮輔くんにかけよりました。でも、小さな声で「また遊ぼう。」と言つて、右手を出すことしかできませんでした。亮輔くんは「ああ。」と言つて、手をにぎり返しました。

一週間後、亮輔くんから手紙の返事をもらいました。「お通夜に来てくれてありがとう。大大大親友だよ。」と書いてありました。ぼくは、ほつとしたの

続いて、一九七〇(昭和四十五)年三月に保育連盟が出版した「真宗保育者の願いと道—まことの保育—」(学研)は、宗派内のみならず、広く保育界からの注目を集め、それ以後、「まことの保育」の言葉が定着していきました。

宗教教育から仏教保育へ、そして真宗保育から「まことの保育」への流れには、以上のような歩みがありました。

官公庁が宗教的情操教育の涵養を掲げながらも、一宗一派に偏つてはならないとの強い意向があったのは、公的な補助金との関わりもあつたでしょう。しかし一九五三(昭和二十八)年ごろから、全国的に仏教各宗各派では保育団体が組織され、活発な活動を展開する中、建園の精神をより鮮明にする動きも活発になっていったのです。

しかし、真宗保育から「まことの保育」に変わった経緯や理由については、史料に明らかではありません。

と同時に、亮輔くんのおばあちゃんが本場に亡くなつてしまつたんだと実感してとても悲しくなりました。急に、亮輔くんのつらな気持ちや、がんばらなくちゃと思つておるきんちやうの気持ちにぼくにうつつてきて、むねがジリジリやけるような気がしました。亮輔くんのために、ぼくに何ができるかはわからないけれど、次の土曜学校のおつとめの時は、やさしかった亮輔くんのおばあちゃんを亮輔くんのことを思つて一生けん命となえたいです。

新年度を迎えるにあたって

幼稚園部

主幹保育教諭 堀端 洋子

入園、進級から約一か月が経とうとしています。素直な子どもたちは「寂しい時、泣きたい時は思ひっきり泣けばいいんだよ」と話したことを信じて本当に大泣きしたり「嫌だ〜!!」と叫んだりしながら思ひっきり自分の気持ちを表現して過ごした一か月でした。そうしながらも、次第にお家の方から自分で離れて部屋に向かつて歩いて行く前向きな姿に強さが増え、ささやかな感動。そして私たちが「まことの保育」に変わっていったこと、新しい年度が始まる前に職員全員による研修会が行われました。理事長先生や園長先生が当園の理念や大切にしていきたいことを話されるのですが、私にも順番が回ってくるのです。どういふ話を話したいのかわからないで悩んでいると副園長先生からお電話で、「何を話そうと思つているの?」と聞かれました。なんだかまとまらないけれど、とにかく今自分が感じていることをつづやいていく中で、私共教職員の向かうべき方向と自覚をはっきりとさせて頂きました。一つ

入られていたのでは無いでしょうか。ところが、派内の関係者にはよく理解できても、対外的にひとりよがりな表現と受け止められることも否めない現実がありました。対外的には、「まことの保育」とは「まことを求める保育」で

あることを、いちいち説明しなければならぬという煩わしさがあったのです。「浄土真宗」や「真宗」は七百五十年の歴史に燦然と輝き、広く内外に認知された言葉です。当学会はこうした経緯をふまえ、「真宗保育学会」と称します。